

梅雨の中休み、厳しい暑さとなった7月4日、第104回「ほほえみ交流カフェ」が多くの参加者を得て開催されました。



シニア：18名（会場17名／zoom1世帯）  
講師：1名  
葛が谷ケアプラザ：1名  
見学：4名（会場3名／zoom1名）  
葛が谷薬局：2名  
スタッフ：10名  
計：36名

いつものようにカフェ小泉代表、そして各スタッフの挨拶で会がスタート。話題は自ずと6月25日に開催された「荏田南文化サロン」のトークイベントに。荏田南の地域・福祉活動を立ち上げた5名の女性パネリストが口々に語った、当時から現在に至るまでの「この街」への熱い思い。その5名の内、4名が「ほほえみ交流カフェ」の運営でも中心的な役割を担っています。これからも宜しくお願いします。



さて、本日の講師は、最近「かんぽ生命」のTVcmでも全国区となった荏田東郵便局前で19年間、施設を運営されている「ふじさんデイサービス」の工藤代表です。スタッフ3名も、ご多忙の合間を縫って応援・見学にお越しいただきました。カフェではここ3か月ほど、認知症関連の講話が続いていますが、今回は介護サービスの現場を熟知されている方からのお話でもあり、一味違った興味深い内容となりました。工藤代表が介護サービス・ビジネスの世界に身を投じる切っ掛けは、御自身の母親の認知症だったと。「認知症」という言葉も一般的でなかった当時、母親が入所している施設に行くと、居眠りばかりしていたと。それでは高いコストを負担して施設に入所している意義が薄いと感じ、自分でもっと夫々の患者に相応しいサービスを提供可能な施設を運営したいと決意されたとのこと。患者一人ひとりに最適なサービスを決定・提供するには四つの重要な要素があると。



認知症のタイプ / 本人の性格 / 生活・住環境 / 経済力



1. 罹患しているのは、アルツハイマーか脳血管性かまたはまたレビー小体か前頭・側頭型か。 専門医療機関での確な診断を受けること
2. 御本人が介護を受けることに抵抗がないか。 デイサービスに通うことに楽しみを見出しているか。 施設でやりたいのは 歌や音楽、ペットとの触れ合い、脳トレ、それとも機械リハビリなどなど
3. 自宅のバリアフリー状況、家族構成
4. 経済力に見合う介護サービスの内容や頻度



これらの要素を担当ケアマネさんと慎重に検討して、「遠慮は無用」 複数の施設を試してみる。場合に依ってはケアマネさんを変えることもありだと。「最後は相性」です。

講話を聞いたシニアの皆さんからも、「介護サービス」と言っても多彩なメニューがあることが判り、勉強になったとの声が多く上がりました。 工藤さん有難うございました。



7月が誕生日の参加者がおられず、次なるコーナーは、手造りの素敵な上着を羽織られたシニアリーダーの司会の下での「お喋りタイム」です。まずはリーダーさんが口火を切ります。「近所の建設現場で働く外国人労働者に声を掛けたところ、元気な挨拶が返ってきた。とても幸福な気分となり、長年の御連れ合いを先日亡くした悲しみが少し晴れた」とのこと。言葉の持つ力を感じます。認知症の家族を持つ参加者複数名からは、工藤講師のお話と御自身の体験を照



らし合わせた感想などが聞かれました。



そして、**体操のお姉さん**の登場です。「カフェに来ると若くなった気がする。皆さんと一緒に体操をしっかりするために、国際プールで週1

回『アクアビクス』に取り組んでいる」とのこと。道理でいつまでも若々しく澁刺とした指導ぶりです。今回は手指の末梢血管の血流促進運動から始まり、ふくらはぎ、足首、上体伸ばし・屈伸、肩回りの運動などをこなしました。



最後は「ふれあい丘の街」を参加者全員で合唱してあっという間の2時間でした。

次回は8月1日（火）、講話は元荏田南中学校長、榎 登志裕様による「温泉へ行こう」  
です。 お楽しみに。